

令和2年度
三鷹市立小・中一貫教育校
全7学園の評価・検証報告



令和3年6月
三鷹市教育委員会

令和2年度 三鷹市立小・中一貫教育校各学園の評価・検証について

平成21年度に、三鷹市内のすべての公立学校が小・中一貫教育校となり、各学園に設置されているコミュニティ・スクール委員会が、それぞれ、学園運営、教育活動等の成果や、課題と改善策、各課題解決のための創意工夫、改善策の有効性等について評価・検証を行い、結果を教育委員会に報告しています。

各学園は、それぞれの評価・検証を基に、市教育委員会は、各学園からの評価・検証を基にそれぞれの立場で、三鷹市の推進するコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の一層の充実・発展に努めてまいります。

各学園の評価・検証の項目、取組例は以下のとおりです。

人間力・社会力の育成

(1) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進

○コミュニティ・スクールの運営について

例・コミュニティ・スクールの運営に係る内容

- ・地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等）

○小・中一貫教育校としての教育活動について

例・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等）

- ・小学校間での授業交流
- ・乗り入れ授業
- ・児童・生徒の交流活動

(2) 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実

○（知） 確かな学力について

例・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上

- ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進
- ・主体的・対話的で深い学びの推進
- ・ICT活用
- ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等

○（徳） 豊かな人間性について

例・考え議論する道徳

- ・いじめの早期発見・早期解決
- ・情報モラル教育
- ・生活指導等

○（体） 健康・体力について

例・基本的な生活習慣の確立

- ・体力向上、健康にかかわる内容（食育）等

○ 特色ある教育活動について

例・特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育

- ・オリンピック・パラリンピック教育等

喫緊の課題

○学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革について

例・退校目標時間、ノー残業デー等の設定

- ・教員のタイムマネジメント力の向上
- ・人財の効果的活用
- ・地域行事等への参加の工夫等
- ・部活動の適正化

連雀學園



令和2年度 連雀学園の評価・検証 結果報告

検証項目	① コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ・スクールの運営に係る内容 ・ 地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等） 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ CS委員会での話し合いの時間を確保する。 ・ 学園内・外の支援組織によるスクール・コミュニティの創造④ ・ 子ども熟議による企画⑨ ・ 協働しての交流活動⑩ ・ 学園の教職員の当事者意識とCS委員会や地域、家庭との協働⑭ ・ 発信力のある広報活動⑮ 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍において、CS委員会を対面で開けたのは1回、あとはZoomでの開催となったが、事前資料配布は100%でき、議題の共有は達成できた。 ○ コロナ禍においても感染対策を十分に行い、子ども熟議、小学校3校で漢字検定、中学校で漢字、英語検定が実施できた。 ○ 学校再開後にCS委員を中心に地域、保護者と連携し下校指導や給食サポートを行ったことで、教職員の学園の当事者意識が向上した。 ○ 学校閉鎖期間においてホームページや配布文書で積極的に配信できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ Zoomでのオンライン会議が多かったため、十分に話し合う時間が確保できなかった。学校関係の報告のスリム化や協議内容の事前配信などで改善していく。また、オンライン会議の実施以外でも早めに資料を配布していくことで、意思疎通を図っていく。 ○ 来年度の市政70周年の発表に向けて、子ども熟議の内容をさらに充実させていく。 ○ 子ども熟議で出てきた意見をCS委員会で年度内に実現させていくことが求められる。 ○ 漢検、英検の実施や各種サポートについては、各校の支援組織と学園、学校の連携の在り方を考えていくことが今後の課題となる。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等） ・ 小学校間での授業交流 ・ 乗り入れ授業 ・ 児童・生徒の交流活動 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流活動の改善⑤ ・ 学園研究の充実① ・ 児童会・生徒会組織によるリーダーシップの育成⑥ 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乗入れ授業は、学校再開後計画的に実施できた。 ○ 5年生の選択交流学習は、コロナ禍での対策をたてて実施できた。一中体験は、授業を廊下から参観、ビデオで部活動や学校生活の紹介を小学校3校別日に実施し、対面で体験でき有意義だった。 ○ 三鷹市の小・中一貫カリキュラムの学園版を地域学習、キャリア教育を中心に活用し学習を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乗入れ時には、事前の打ち合わせの時間を見つけて行うことで指導の成果をあげていく。 ○ 交流活動は、小・中学校の連携に欠かせない行事であるため内容や実施方法を工夫し可能な限り実施していく。 ○ 三鷹市のスクール・コミュニティ構想の実現に向けて、学園の人財の発掘やつながりが課題となる。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・ キャリア・アントレプレナーシップ教育 ・ 授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・ 主体的・対話的で深い学びの推進 ・ ICT活用 ・ みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園研究の充実① ・ 基幹学力の定着・向上② ・ キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進⑧ 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京ベーシックドリルの結果分析をもとに、地域未来塾や児童の実態に応じた補習学習の実施により、学力テストのD層の減少を図ることができた。 ○ 学園研究はコロナ感染防止を考慮し、今年度は各校ごとの校内研修の形となったが、各校の取組みや授業研究の実践報告を共有することで深め合うことができた。 ○ キャリア・アントレプレナーシップの学習を各校ともに感染対策をしながら行い実りある実践授業ができた。 ○ ICTの活用では、タブレットのスムーズな配布ができ、学習の活用に向けて計画を進めつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三鷹市の学力調査の結果分析をもとに、今後は個別最適化に向けた学習指導を積極的に行っていく。 ○ 「連雀学園版小・中一貫カリキュラム」のさらなる活用が課題である。 ○ 学園研究においては、自尊感情の向上を目指してコロナ禍でもできる各校の取組みを共有しすすめていく。 ○ 学習の遅れを生じさせないタブレットの活用を学園で共有しながら進めていく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考え議論する道徳 ・ いじめの早期発見・早期解決 ・ 情報モラル教育 ・ 生活指導等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践力につながるあいさつ運動⑦ ・ 温かい人間関係の醸成、道徳教育の充実、自己肯定感・自己有用感の向上⑫ 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナの感染不安を減らすために個に寄り添った指導や分散登校後の授業の再開にスムーズに適応できるよう各校取り組んだ。生活の振り返りアンケートの結果は、クラスの仲間と協力できているとの肯定的回答が学園として9割を超えていることは大きな成果である。 ○ 学園としての挨拶運動は実施できなかったが、各校の実態に合わせた挨拶の実践力を高める取り組みを行った。CS委員からは来校時に挨拶できる児童が増えたと評価をもらった。 ○ 連雀学園の児童・生徒でよかったと肯定的に回答している割合が昨年度に続き高かったことは成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活指導に関しては、学園で共通に取り組む指導の充実を、小・中連絡会などを通して図っていく。 ○ いじめの早期発見に向けて、コロナ禍においての不安感の解消を目指して、ふれあいアンケートをさらに丁寧に聞き取り児童・生徒の内面の把握をしていく。 ○ 自己肯定感・自己有用感のアンケートは、例年よりも数値の伸びがみられなかった。コロナ禍での学校生活の制限や不安感など、様々な角度から分析し向上できるよう取り組んでいく。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 体力向上、健康にかかわる内容（食育）等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園研究の充実① ・ 体力向上、健康教育への取り組み ・ オリンピック・パラリンピック教育の推進⑬ ・ 安全に関する正しい知識と高い意識⑩ ・ 「わが家の『学び』のスタンダード」の推進 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学園研究を通して心身ともに健やかな児童・生徒の育成に向けて授業改善の意識を高め取り組んだ。一斉に集まらない分、各校の実践事例の回覧で共有できたことは成果である。体力調査は5年生のみ実施した結果、体力の低下は明らかになった。 ○ 「わが家の『まなび』のスタンダード」を学園研究の健康教育の推進を目指して学校主体で取り組んだ。学園アンケートの結果では、保護者、児童・生徒ともに健康な生活についての肯定的な回答の割合が高まり規則正しい生活への意識が向上したことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍でもできる体力向上に向けて、授業改善や体育的活動の研修などを通して工夫していく。 ○ 「わが家の『まなび』のスタンダード」の取り組みを評価、分析し来年度に向けて、健康な生活がさらに定着するよう家庭と連携していく。 ○ タブレットでの毎朝の健康観察により、心身の健康状況の把握をしていく。それに伴い、「わが家の『まなび』のスタンダード」の取り組み項目も見直し改善していく。

検証項目	6 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退校目標時間、ノー残業デー等の設定 ・ 教員のタイムマネジメント力の向上 ・ 人財の効果的活用 ・ 地域行事等への参加の工夫等 ・ 部活動の適正化 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園における働き方改革 ・ 部活動の適正化 ・ 地域行事等への参加の工夫 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務の改善による在校時間を減らす意識は高まっている。6割弱の教員が在校時間の基準をクリアできた。 ○ 中学校の部活動指導は外部人材の登用で適正化されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学期末や行事前に在勤時間が増える傾向にあるので、タブレットの活用などで、効率よく校務をすすめる方法の共有を進めていく。 ○ スクール・コミュニティの構想を具現化するためにも、地域の人財の活用をさらに充実させていく。

令和2年度 連雀学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて

1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと

- 分散登校の見守り、下校指導、給食補助等、学校・家庭・地域の連携、協働により児童・生徒の安全な学校生活が実施できた。
- コロナ禍においても、学習の補償や個々に寄り添う指導により、「連雀学園でよかった」という高い評価につながり学校生活の充実が図れた。
- 閉鎖や分散登校があると友人と会えない期間を経験したが、友人関係は良好であることが評価から読み取れた。
- CS委員会として、感染対策を万全にし、漢字・英語検定、子ども熟議が実施できた。広報活動の充実、連雀カレンダーの発行の推進や評価方法の改善など、各部の活動の充実が見られた。

2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること

- 今年度のオンラインによるリモート会議の振り返りをもとに、CS委員会の意見の交流の充実を目指しより良い連携を図る。
- 学園研究「心身ともに健康な児童・生徒を目指して」の達成に向けて授業改善、体力の向上と健康の増進を進め、自己肯定感の取組みをより充実させていく。
- 今年度コロナ禍で学園として実施できなかった活動を状況に応じて実現させていく。
- 学園CS委員会の活動の発信力の強化を目指す。

3 「2」の重点課題を解決するための改善策

- CS委員会での意見交換を確保するために、今年度同様資料を事前配布し、協議内容を事前に示しておく。リモート会議においても意見交流を行う当事者意識を高めていく。
- CS役員会の組織編制をし、CS委員会での議題を委員が確実に受け止められるよう司会、進行の準備を整える。
- 学園のホームページの更新数をさらに増やしたり、CS委員会各部からの情報を提供したりしていく。

にしみたか学園



にしみたか学園

令和2年度 にしみたか学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ・スクールの運営に係る内容 ・ 地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等） 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 CS委員会の周知 2 承認事項内容の事前配布 3 学園ホームページの更新 4 SC推進員の活用（学校支援等の派遣） キャリア教育の推進（講師・体験場所の支援） 5 CSと教員の合同熟議の実施（8月）（状況に応じメールによる意見集約） 6 学園カレンダー 7 にしみたかアクションプランの策定 8 地域による英検の実施 9 感染症にかかわる支援 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 CS委員会の周知（広報活動や熟議にて） 2 承認事項内容の事前配布（メールでの配信） 3 SC推進員の活用（学校支援等の派遣） キャリア教育の推進（講師の支援） 4 地域とCSの合同熟議の実施 5 学園カレンダー 6 にしみたかアクションプランの策定 7 地域による英検等の実施支援 8 感染症にかかわる支援 9 ほぼ予定通りにCS委員会の実施（Zoomの活用） 10 CS研修会の実施（探求学舎・評価研修） 	<ol style="list-style-type: none"> 1 承認事項内容の事前配布 2 学園ホームページの更新 3 CSと教員との交流（合同熟議） 4 学園カレンダー 5 にしみたかアクションプランの策定決定 6 地域による英検等の人材確保

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等） ・ 小学校間での授業交流 ・ 乗り入れ授業 ・ 児童・生徒の交流活動 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 学園研究として「キャリア教育」について取り組む。 2 「乗入れ授業」外国語活動と英語、体育と保健体育で実施 3 小・中一貫カリキュラムの改定 4 二中紹介（Zoomによる小6） 5 部活動紹介（DVD） 6 作品による交流（絵画・DVD・音源等による展示・視聴）Zoomによる紹介 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 「学習習慣の定着」のため地域未来塾に実施 2 中学校部活動の活動時間にルールの厳守 3 タブレットを活用した授業展開 4 「思考の場」を増やした授業展開 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用 2 スタンドアードによる教員の指導の統一 3 地域未来塾のさらなる活性化 4 タブレットを活用した、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開 6 「思考の場」を増やした授業展開

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> 三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 キャリア・アントレプレナーシップ教育 授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 主体的・対話的で深い学びの推進 I C T活用 みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用 2 スタンダードによる教員の指導の統一 3 「学習習慣の定着」のため地域未来塾に実施 4 中学校部活動の活動時間にルールの厳守 5 I C Tを活用し、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開 6 「思考の場」を増やした授業展開 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力調査や児童生徒による授業アンケート等の結果活用 2 スタンダードによる教員の指導の統一 3 「学習習慣の定着」のため地域未来塾に実施 4 中学校部活動の活動時間にルールの厳守 5 I C Tを活用し、UDの視点に立ったわかりやすい授業展開 6 「思考の場」を増やした授業展開 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業アンケート等の結果をもとにした授業改善推進プランの策定 2 スタンダードによる教員の指導の統一 3 地域未来塾のさらなる活用 4 個別最適化をめざしたタブレットの有効活用 5 「思考の場」を増やした授業展開

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> 考え議論する道徳 いじめの早期発見・早期解決 情報モラル教育 生活指導等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年度の研究成果である「道徳における」思考力を高める授業の実践 2 いじめの早期発見早期解決を図る。(3校でQ Uを実施、検証) 3 スマートフォン等情報機器活用教室の開催 4 学校行事等で、児童・生徒が「主体的に考え活動する」場の設定 5 感染症にかかわる、人権教育の推進 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 「道徳における」思考力を高める授業の実践 2 いじめの早期発見早期解決を図る。(3校でQ Uを実施、検証) 3 タブレットの活用についてルール策定 4 学校行事等で、児童・生徒が「主体的に考え活動する」場の設定 5 感染症にかかわる、人権教育の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1 継続して「道徳における」思考力を高める授業の実践 2 いじめの早期発見早期解決を図る。(3校でQ Uを実施、検証) 3 タブレットのルール徹底 4 「主体的に考え活動する」場の設定 5 感染症にかかわる、人権教育の推進

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1 基本的な生活習慣の確立 2 体力向上 3 給食を活用した食育	
取組	1 早寝・早起き・朝ごはんの徹底 2 生活習慣チェックリストの活用（学期始めに実施） 3 1校1取組、1学級1取組の実施 4 給食を活用した食育の推進 5 中学における部活動の推進 6 中学校における「命の教育」・校内駅伝大会の実施（交通対策委員会） 7 感染症に対する理解啓発	
	成果	課題と改善方策
	1 早寝・早起き・朝ごはんの徹底 2 生活習慣チェックリストの活用（学期始めに実施） 3 1校1取組、1学級1取組の実施 4 給食を活用した食育の推進 5 中学における部活動の推進 6 中学校における「命の教育」・校内駅伝大会の実施（交通対策委員会） 7 感染症に対する理解啓発	1 早寝・早起き・朝ごはんの徹底 2 タブレットを活用した生活習慣チェック 3 1校1取組、1学級1取組の実施 4 給食を活用した食育の推進 5 中学における部活動の在り方検討 6 中学校における「命の教育・校内駅伝大会」の実施 7 感染症に対する理解啓発

検証項目	6 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退校目標時間、ノー残業デー等の設定 ・ 教員のタイムマネジメント力の向上 ・ 人財の効果的活用 ・ 地域行事等への参加の工夫等 ・ 部活動の適正化 ・ 感染症対策 	
取組	1 長期休業期間中の休業日設定（夏季閉庁日の設定） 2 ノー残業デーの設定 3 教員の進行管理 4 CS委員会と連携した人財の活用 5 部活動指導員や外部指導員の積極的な活用 6 感染症対策	
	成果	課題と改善方策
	1 長期休業期間中の休業日設定（夏季閉庁日の設定） 2 ノー残業デーの設定 3 教員の進行管理 4 CS委員会と連携した人財の活用 5 部活動指導員や外部指導員の積極的な活用 6 感染症対策	1 休業期間の設定・ノー残業デーの設定 2 キャリア教育等の各種講師の紹介 3 外部人財のさらなる拡大（にしみたかアフタースクール構想） 4 感染症対策の徹底

検証項目	7 その他	
目標	<ul style="list-style-type: none"> 次世代の人材育成 感染症対策 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 副校長職及び管理職候補者の人財育成と受験者の発掘 主任選考受験者の育成 感染症対策（予防・発生時の危機管理） 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 副校長職及び管理職候補者の人財育成と受験者の発掘 主任選考受験者の育成 感染症対策（予防・発生時の危機管理） 	<ol style="list-style-type: none"> 主任選考者への指導 感染症対策の継続

令和2年度 にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫成果 感染症拡大の中、カリキュラム検討、リモートによる授業参観、授業評価、児童生徒代表者会、リモートによる中学校紹介を実施した。 CSの成果 アクションプラン策定に向け、PTA、地域の方と熟議が実施できた。 3校のPTA役員との顔合わせができた。 キャリア教育講師の紹介、英検等の人材確保 CS研修会の実施
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ol style="list-style-type: none"> CS委員と教員との交流 アクションプランの策定 学園研の実施方法 各種調査のさらなる活用 基礎学力の定着 個別最適化に向けた取り組み 体力の向上 継続した感染症対策
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<ol style="list-style-type: none"> CS委員と教員との熟議実施 アクションプランの策定 感染症対策を行った学園研の実施 各種調査の分析・活用の検討 基礎学力の定着にむけた自宅学習の定着 個別最適化に向けた取り組みのためタブレットの活用と個別の指導方法の工夫・改善 体力の向上のため体育的な行事の実施と体育での基礎体力の定着 感染症対策のためマスク・手洗い等の指導及び人権配慮の徹底

三鷹の森学園



令和2年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	地域との協働の下に、「次の10年」に向けたコミュニティ・スクールの運営ビジョンを策定する。	
取組	<p>◎ 3つのミッションの実現を通じて、CS委員会のさらなる活性化を図る。</p> <p>1 コミュニティ・スクール委員会での報告、承認並びに協議の活性化を通して、学園運営の充実を図る。</p> <p>2 熟議を通して、小・中一貫カリキュラムの充実に資する三鷹の森学園の教育資源を明らかにする。</p> <p>3 SC推進員の活躍による、学園サポーター事業の充実など、「次の10年」を見据えて、学園の持続可能な組織運営の在り方を検討する。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ コロナ禍においても、通信機器を活用して計9回の三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会を実施した。例年よりも出席率が特別に落ちこむことなく、通常通り開催することができ、学園運営の充実を図ることができた。</p> <p>○ 学園研究会は予定通りに実施することはできず、熟議を行うことはできなかった。総合的な学習の時間や他教科においてゲストティーチャー招いたり、地域協力者とオンラインでつなぐ授業を実施したりするなどし、学園カリキュラムを推進することができた。</p> <p>○ 「みたか地域未来塾」の運営が充実した。SC推進員が事前に担任から学習内容を聞き取り、支援員に伝える役割を果たすなど、教員の負担を軽減しつつ、効率的に実施することができた。また、SC推進員が窓口となり、地域人財を安定的に確保することができた。</p>	<p>● CS委員会が実施できたことは非常に価値のあることであったが、直接対面でないことで、意思の疎通が十分でない面もあった。今後は、委員の負担を軽減する意味でも通信機器を使用しての実施を進めていくが、議事内容によっては直接対面での開催も検討していく。</p> <p>● 「三鷹の森の子供たちは、三鷹の森で育てる」ためにも、今後も様々な教育資源をカリキュラムにつなげていく必要がある。今年度作成した学園カレンダーを地域とつながるひとつのツールとして活用しながら学校と地域の関係性をより「密」になるよう取り組みを推進していく。</p> <p>● 「社会に開かれた教育課程」を実現するためにも、授業を通して学校と地域がつながる必要がある。そのために、SC推進員の役割は重要である。推進員の役割について改めて、CS委員会の場で議論し、推進員がより計画的に活動できるようにしていく。</p>

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	学園教育目標に示す資質・能力の育成を目標に、学園として一体感のある教育活動を展開する。	
取組	<p>◎ 3つのミッションの実現を通じて、小・中一貫教育校のさらなる活性化を図る</p> <p>1 小・中一貫教育の質の向上を図り、教育活動のさらなる充実を実現するために、三鷹市研究協力校としての研究を推進する。</p> <p>2 小・中間の指導の継続性及び連続性を担保し、児童・生徒の健全育成を図るとともに、適切な支援を実現する。</p> <p>3 「開園10周年記念事業」のレガシーとして、学園生の一体感を育む取り組みの継続・維持・発展を図る。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 研究発表会は中止となったが、研究成果として「カリキュラム・マネジメント・ガイド」を作成することができた。学園の全教員にも配布し、次年度はこのガイドを活用した授業実践を展開する予定である。</p> <p>○ 学園の教育目標の「社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技術等を主体的に更新する力」「自ら問題を発見し、筋道立てて考えたり、試行錯誤したりしながら問題を解決する力」を育成するために「マンダラート」という学習ツールを活用した学習活動を授業の中に設定した研究授業を行った。</p>	<p>● 次年度は本年度作成した「カリキュラム・マネジメント・ガイド」を活用した授業実践を展開する。</p> <p>● 9年間継続して「マンダラート」を活用することで、思考を整理する習慣を身に付けられるように支援する。</p>

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	主体的・対話的で深い学びの視点から学習指導の改善・充実を図り、9年間の確かな学びを実現する。	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学園研究を通して、学園の児童・生徒に育む「資質・能力」を学園版小・中一貫カリキュラムに位置付けるとともに、実践に取り組む。 ○ 市『『学び』のスタンダード』や「6つの学習習慣（三鷹の森学園スタンダード）」を共通の指標として、自ら学ぶ力の育成を図る。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学園研究で作成した「カリキュラム・マネジメント・ガイド」をもとに、3校の代表教員が検証授業を実施し、検証結果を研究冊子に収録した。 ○ 予習・復習の活用や反転授業の導入など、家庭学習を学習のプロセスに位置づけたり、学習内容の重点化を図ったりした。 ○ タブレットやPCで補習学習教材を活用した取り組みを実施し、個別の基礎学力の充実を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度は感染症対策のため検証授業を限定的に実施したが、次年度は「カリキュラムを活用した指導実践」を学園全教員共通の取組とする。 ● 学習課題の工夫やICT機器の活用など、指導方法の改善をすすめ、授業力の向上を目指す。 ● 児童・生徒に配布された学習用タブレットの活用について、各校のマイスターを中心に、さらに研究をすすめる。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切にし、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「健全育成」と「教育支援」の充実を目的とした小・中間の情報交換・情報共有の充実を図るとともに、「学園生活指導計画」を踏まえ、自己有用感や集団への帰属感、規範意識を育む指導を推進する。 ○ 「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」を育成するために、地域の教育資源の活用を図る。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校では、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、工夫して多様な人々との対話を行った。第2学年は職場体験の代わりに、電話やICT機器を活用して地域だけでなく他県の様々な事業所等に職場インタビューを行い、報告会を行った。 ○ 小学校では乗り入れ教員やALT配置の工夫を計画的に行い、生きた英語での「きく」「話す」学習活動の充実を図り、TGGにおける学習も充実させたことで、児童に多様な人々との交流に意欲をもたせた。 ○ 感染症対策を踏まえ、工夫した学校生活と他者との関わりについて子どもたちの意識向上を図った。物理的な距離は取りながら協働して課題解決に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学園内の情報共有、CS委員会との連携を充実させながら、他の活動においてもICT機器の活用等により可能になる教育活動の充実を図る。 ● 外国語に限らず、年間指導計画に基づき、乗り入れ教員、地域人材等、教育資源の活用の充実を図る。 ● 感染症対策で制限される教育活動は今後も予想されるが、可能なことを見極め、工夫した活動形態において行っていく。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。	
取組	○ 基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、学園生の体力・運動面の課題を踏まえ、中学校教員による体育の乗り入れ授業や各校における取り組みを通して改善を進める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校教員の小学校体育への乗り入れ授業によって、高い専門性に基づいた指導が実施された。児童も中学校での学習への見通しをもちながら、学習意欲を高めることができた。 ○ コロナ禍でも、密にならずに行える運動を工夫して、縄跳び等による体力づくりに取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 休校明けの1学期は、転んだり接触したりしてのけがが多く見られた。運動する機会の減少が児童・生徒の体力の保持、増進に与える影響を踏まえ、運動能力・体力向上の取組を計画、実施していく必要がある。

検証項目	6 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	学校教育の早期正常化に向けた取り組みを推進するとともに、教職員の働き方の改善・適正化を通して、学園の教育活動の充実・向上に努める。	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒の学習指導においては限られた時間の中で最大限のパフォーマンスを発揮できるように、教育計画の柔軟な運用と再編成を迅速に進める。 ○ SSSや校務支援システム、地域の教育力の導入などの取組を推進するとともに、各学校の業務改善と教員の意識改革を図り、時間外勤務の縮減を進める。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働き方改革に対する教職員の意識が変容し、タイムマネジメントをする教職員が増えたことは成果である。大半の教員が、積極的な年次有給休暇の取得も進めてきている。 ○ 昨年度に引き続き、校務処理の効率化や会議の効率化・精選化に努めたことや、ガイドラインに沿った休養日の設定などの効果により、教員の実働時間は減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」に定められた、年次有給休暇の最低5日間の取得をしていない教員が、2月現在で各校とも5名程度存在している。今年度は、新型コロナウイルスの休校措置の補充のための土曜授業日の振替を春季休業中に充てていることもあり、年休5日間の取得を授業日に行わなければならない例も出てくる。来年度は、計画的な取得を夏くらいまでに終わらせておく必要がある。 ● 今年度は、新型コロナウイルス対応による業務量の増加が影響したこともあって、目標とした業務量減少のラインには到達できなかった。来年度も同様の状況下であることが考えられるが、教員自身が具体的に業務の効率化を図るなど、自ら業務改善に努めることが課題である。また、実効性をもった具体的な取組（人員増や学校がやるべきことの精選）を推進することも必要である。

令和2年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ

(1)から(7)の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	○ 感染予防のために予定されていた研究発表会は実施できなかったが、コロナ禍において様々に制約がある中でも学園の研究を進め、その成果を共有することができた。
	○ コロナ禍においてもZ o o mの活用等によりコミュニティ・スクール委員会の活動が継続できたため、教育活動への支援や協働も途切れることなく進めることができた。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	○ 2年間にわたる研究の成果「カリキュラム・マネジメント・ガイド」と「資質・能力一覧」を活用して、小・中一貫カリキュラムに基づいた実践を進める必要がある。その際、今年度は実現が難しかった地域の教育資源の活用を重点を置きたい。
	○ 急速に整備の進んだタブレットP Cの活用については現在の試行錯誤の段階から実践的に有効な方法を見出し、共有化することが必要である。
○ 例年実施していた交流活動がほぼ実施できなかったため、感染対策を図りながら小・小、小・中の交流を再開する必要がある。	
○ 法令の順守も含め、働き方改革の取組はさらに重点化を図りながら推進する必要がある。	
3 「2」の重点課題を解決するための改善策	
○ 学園研究のテーマに「カリキュラム・マネジメントの実践」を位置づけ、これまでの研究成果の実践と検証を進める。特に、地域の教育資源の活用については、感染対策を図りながら、蒲生の範囲で積極的な導入を図る。	
○ タブレットP Cの活用を学園研究の新たな視点として設け、検証授業等での活用を図る。また、「児童・生徒会交流会」などの交流事業でもタブレットP C活用の可能性を探る。	
○ 働き方改革については組織としての取組と併せて、教員自身による業務改善目標を設定するなど、意識改革も含めた取り組みを進めていく。	

三鷹中央学園



令和2年度 三鷹中央学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	コミュニティ・スクール委員会の組織を活用し、連携しながら、学校、保護者、地域が一体となった取組を推進し、協議と支援の充実を図り、目指す学園生像の実現に努める。	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域協働活動の充実を目指し、CS委員会の役割と担当をより一層明確にして、誰もが役割を担えるよう、運営体制を確立させていく。 ② 昨年度の成果を活かしつつ、学園の教務担当と調整するなどして百人熟議等の協議や合同研修の機会を充実させるとともに、市政70周年記念事業に協力し、その成果を広く他に提供していく。 ③ 昨年度末及び新年度初めから、教員、保護者、地域への説明を計画的に実施し、新しい学習ボランティアの募集システムの理解を深めるとともに円滑な活用が図れるようにしていく。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ① CS委員会の役割を確認するとともに、運営の仕方等を工夫しながら改善を図ることができた。特に、学園・学校評価アンケートの手法や成果のまとめ方を工夫することでより効果的に評価を実施することができた。 ② 学校公開の日にCS委員会を開催し、地域と学校の双方が参加しやすい状況を作り出すことができた。特に、熟議に代わる道徳授業地区公開講座での協議会への参加もあり、学校の状況を深く知る機会となった。 ③ 学習ボランティアの説明会や研修会を計画的に実施するなど、綿密な連絡・調整によって新しい募集システムへの対応を段階的に進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域協働活動の充実を目指し、CS委員会の役割と担当をより一層明確にして、誰もが役割を担えるよう、運営体制を確立させていく。 ② 次年度も引き続き、学園の教務担当と調整するなどして百人熟議等の協議や合同研修の機会を充実させるとともに、市政70周年記念事業に協力し、その成果を広く他に提供していく。 ③ 本年度末及び新年度初めから、教員、保護者、地域への説明を計画的に実施し、新しい学習ボランティアの募集システムの理解を深めるとともに円滑な活用が図れるようにしていく。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<p>「15歳の姿に責任をもつ」教育活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学園研究会を核として、思考力や表現力等を育む指導を工夫する。 ② 交流活動の一層の充実を図る。 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ① 昨年度作成したカリキュラムを実証する研究を進め、児童・生徒が学習でつまづくことなく理解を深めていけるよう、指導のポイントを明確にしていくための授業を実践していく。 ② 子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を各教科や総合的な学習の時間などキャリア教育につながる学習の充実や体力・運動能力の向上を図るための取組の充実を図っていく。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ① 学園研究として各教科分科会を中心として、本学園版の小・中一貫カリキュラムを分科会ごとに実践例を検討することができた。また、次年度の研究計画にも反映させることができた。 ② 交流活動に制限があったものの、新しい生活様式に基づいた活動を工夫し、間接的な交流を中心に活動することができた。学校だより・学園学校ホームページ等で紹介することで学校評価アンケートでの肯定的な評価も各校とともに向上してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本年度に引き続き、作成したカリキュラムを実証する研究を進め、児童・生徒が学習でつまづくことなく理解を深めていけるよう、指導のポイントを明確にしていくための授業を実践していく。 ② 本年度に引き続き、子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を各教科や総合的な学習の時間などキャリア教育につながる学習の充実や体力・運動能力の向上を図るための取組の充実を図っていく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン・すすんで学ぶ人」の取組内容を基に、学校・家庭・地域の実践内容を具体的に展開し、学習習慣の改善を図り、確かな学力を育む。	
取組	<p>① 小・中学校ともに基礎的基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、個に応じた適切な指導によって学力の向上を図っていく。そのための一つの方策として、パワーアップアクションプランで学力の向上をテーマとするなどして議論を深めるとともに、家庭学習の取り組み方の目安等を具体的に家庭に事例として紹介していく等のアイデアを出し合っ、さらなる充実を図れるようにしていく。</p> <p>② 各校における状況に応じて望ましい読書の習慣化が図られるように指導していくとともに、目的に応じて学校図書館を利用した調べ活動を活発に行えるように指導の工夫をしていく</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>① 百人熟議は実施できなかったが、道徳授業地区公開講座の協議を通して豊かな人間性に関する議論ができた。各校において、個に応じた適切な指導の充実を図る取組を実施することができた。</p> <p>② 徐々に各校が目標とする読書活動も充実してきている。また、学校図書館を利用した調べ学習もできるようになってきている。</p>	<p>① 引き続き、小・中学校ともに基礎的基本的な学習内容の確実な定着を図るとともに、個に応じた適切な指導によって学力の向上を図っていく。そのための一つの方策として、パワーアップアクションプランで学力の向上をテーマとするなどして議論を深めるとともに、家庭学習の取り組み方の目安等を具体的に家庭に事例として紹介していく等のアイデアを出し合っ、さらなる充実を図れるようにしていく。</p> <p>② 引き続き、各校における状況に応じて望ましい読書の習慣化が図られるように指導していくとともに、目的に応じて学校図書館を利用した調べ活動を活発に行えるように指導の工夫をしていく。</p>

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	地域・保護者と連携し、各校の「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を着実に実施して、いじめを防止する。また、学園生活指導重点目標の実現を図り、自己肯定感・自己有用感をもつ学園生を育む。	
取組	<p>① 低学年の児童の自主的なあいさつが少ないと地域の方からもご指摘があることから、引き続き、各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実を努めていく。</p> <p>② 家庭との連絡を密にしながら組織的な支援を充実し、子供の悩みや不安を取り除いていくとともに、学校の取組を分かりやすく保護者に伝えていく。</p> <p>③ 防災教育の実施や市防災訓練への参加等を通して、一人一人が活躍できる場や成就感をもてる場を作り、ほめて励ますことを徹底して、どの子も自己肯定感や自己有用感が高まるようにしていく。その結果、児童アンケートで最良回答の増を目指す。</p>	
	成果	課題と改善方策
	<p>① 学園・学校評価アンケートでは、子供たちのあいさつは昨年度比で3%の増と良好である。</p> <p>② 学園・学校評価アンケートでは、いじめや暴力のない学校づくりへの取組に関して、各校の肯定的回答が増加傾向にある。</p> <p>③ 学校だけでなく、保護者や地域住民の協力を得て、ほめて励ます場を大切にし、声掛け表彰等を積極的に行ってきた。児童・生徒アンケートでは、クラスの一人として役に立っているという肯定的な回答は例年通り概ね良好である。</p>	<p>① 昨年度、本年度と低学年の児童の自主的なあいさつが少ないと地域の方からもご指摘があることから、引き続き、各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実を努めていく。</p> <p>② 引き続き、家庭との連絡を密にしながら組織的な支援を充実し、子供の悩みや不安を取り除いていくとともに、学校の取組を分かりやすく保護者に伝えていくようにする。</p> <p>③ 引き続き、一人一人が活躍できる場や成就感をもてる場を作り、ほめて励ますことを徹底して、どの子も自己肯定感や自己有用感が高まるようにしていく。その結果、児童アンケートで最良回答の増を目指す。</p>

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	発達段階に応じた体力・運動能力・防衛体力が身に付くように、生涯にわたって健康や体力に興味・関心を持ち、自ら取り組もうとする態度を育む。	
取組	① 各校の体力・運動の能力の実態に応じて、日常の体育の授業や休み時間における適切な取組を計画・実施し、着実に体力・運動能力の向上に努めていく。 ② 単なるイベントへの参加や体験に終わることなく、各校の体力づくりの取組や総合的な学習の時間の工夫を通して、大会後もレガシーとして継続して実施できる活動を確立していく。	
	成果	課題と改善方策
	① コロナ禍によって活動は制限されたものの、各学校の評価アンケートでは体力・運動能力の向上への取組に関して概ね良好である。体育の授業や休み時間の遊び等を通しての成果が表れている。 ② 東京オリンピック・パラリンピックに向け、各校で計画したトップアスリート等との交流を通じた取り組みを確実に実施することで、児童・生徒の大会への期待感と競技への関心を維持することができた。	① 各校の体力・運動能力の実態に応じて、日常の体育の授業や休み時間における適切な取組を計画・実施し、着実に体力・運動能力の向上に努めていく。 ② 引き続き、単なるイベントへの参加や体験に終わることなく、各校の体力づくりの取組や総合的な学習の時間の工夫を通して、大会後もレガシーとして継続して実施できる活動を確立していく。

検証項目	6 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教職員が意欲をもって、前向きに職務に取り組めるようにするため、実勤務時間の縮減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。	
取組	① 取組の充実のための工夫、保護者への広報を引き続き、学園として3校で徹底していく。 ② 新しいシステムのより効果的な活用や校内での事務作業にかかる時間の短縮などを図るとともに、コミュニティ・スクール委員会との合同研修を休日の学校公開日に実施するなどの工夫を進め、勤務時間内の仕事として調整していく。	
	成果	課題と改善方策
	① 学園で働き方改革を推進することで教育の充実を図っていくという本来の趣旨に則り、学園の教員のほとんどが取り組むことができています。 ② 新しい生活様式に基づいて、みたか未来塾やスクール・サポート・スタッフ等の新しいシステム、会議の短縮やペーパーレス化等の仕組みを学校の状況に応じて取り入れるとともに、学校滞在時間の縮減に向けた時間の有効的な配分等、各教員の工夫によって、働き方改革を推進することができています。	① 引き続き、取組の充実のための工夫、保護者への広報を学園として3校で徹底していく。 ② 引き続き、新しいシステムのより効果的な活用や校内での事務作業にかかる時間の短縮などを図るとともに、コミュニティ・スクール委員会との合同研修を休日の学校公開日に実施するなどの工夫を進め、勤務時間内の仕事として調整していく。

令和2年度 三鷹中央学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて

1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと

本年度の取組として、次の3点についての取組でよい成果が得られた。

①②についてもこれまでの継続した取組によって、本学園の特色ある活動として定着してきているため、引き続き、各校での取組を計画的に実施していくとともに、活動内容を適時にわかりやすく保護者に伝えていくよう努めていく。

- ① 学園として防災教育を行い、子どもたちが平時の備えや災害時に取るべき行動を身に付けること。
- ② 子供たちがあいさつをすること。
- ③ 学園だより・学園・学校ホームページで学園の取り組みや子どもの様子を保護者・地域に伝えること。

2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること

本年度の課題のうち、次の3点を次年度の重点課題とする。

学園・学校評価アンケートの結果から、①は昨年度比5%減であり、継続して改善していく必要がある。②は昨年度比3%増と低く、昨年度、本年度と低学年のあいさつが少ないとのご意見もあることから、引き続き、改善していく必要がある。③は昨年度比3%減であり、各校の実態に即して改善を図っていく必要がある。

- ① 地域人財や学習ボランティアを積極的に活用すること。
- ② 子どもたちがあいさつをすること。
- ③ 子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を行うこと。

3 「2」の重点課題を解決するための改善策

次年度の3つの重点課題を解決していくために、次の3点のように取り組み改善していく。

- ① 取組の工夫、保護者への広報を学園で徹底し、学園で働き方改革を推進することで、教育の充実を図っていく。
- ② あいさつは日常生活の基本である。各家庭でのあいさつの励行を進め、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実によって、しっかりとあいさつできるようにしていく。
- ③ 各校の実態に即して各教科や総合的な学習の時間等でキャリア教育につながる学習を充実させ、子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考えることができる授業を実践していく。

鷹南学園



令和2年度 鷹南学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	① 開園10周年以降の運営の持続と発展を目指す。 ② 「鷹南っ子生きる力育みプログラム」(挑戦心・やり遂げる力・協働する力)の活動の持続と発展を目指す。 ③ 学園・学校経営の協議と支援をバランスよく行う。	
取組	① 持続可能なCS委員会のため、CSによる行事の精選や会議の効率化を図り、検証をもとに「多世代・当事者意識」をキーワードにして内容や取り組みを創造する。 ② 「鷹南っ子生きる力育みプログラム」の活動を持続可能にするため、CS委員会において、取り組みの整理と会議の効率化を図り検証をもとに内容や取り組みを創造する。 ③ 協議内容を明確にし、効率化を図る。支援活動の意義や目的、方法を合意形成し、持続可能な方法を工夫していく。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナの影響を受けながらも、適宜リモート会議を取り入れるなどして活動を継続し、協議や承認を得て円滑な学園運営をすることができた。 ・ 人の交流が制限される中、学校施設の消毒、鷹南コンサートオンライン開催、鷹南カレンダーの作成など、多くの成果を上げることができた。 ・ メールやSNSを活用し、CS役員、管理職、CS部内においてこまめに連絡を取り合って効率的にCS委員会や部会の運営をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナの影響が長引くことが予想される。リモート会議棟が円滑のできるよう環境整備を急ぐ必要がある。 ・ 鷹南会、異文化交流、CS熟議、子供熟議、漢字検定などが実施できなかった。創意あふれる工夫を継続して考えていく。 ・ 学園、学校運営に関する協議や、学校支援事業に関する協議についてその意義や目的方法等を話し合うことは十分にできなかった。また、CS対象の研修会も企画したが、実現できなかった。新型コロナ感染症の影響があり、仕方のない面もあるが、環境を整え、機会を調整してこれらの課題解決に取り組んでいきたい。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	① 昨年度の相互乗り入れ授業の検証を受け、鷹南スタンダードの視点からも児童・生徒の学力向上、教員の指導力向上につなげる。 ② 学園行事の内容の精選・検証を行い、交流活動を充実させる。	
取組	① 小学校6年理科へ、中学校理科への相互乗り入れを行う。時間割を工夫し、学期末など連絡会議は定期的実施し、学力向上のための方策を検討する機会としても位置付ける。 ② きょうだい学年交流、子ども熟議の実施、3校連絡会は実施する。意義や目的を考え、取り組みの変更や内容の工夫をしていく。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗り入れ授業については、第2学期の学校再開後、計画通りに取り組むことができ、CS委員会評価部からのアンケートや児童・生徒のアンケート、感想からも一定の成果を上げているといえる。 ・ 新型コロナ感染症の影響下において、第6学年の中学部活動体験、小・中挨拶運動、第5、6学年の中学校オリエンテーション、兄弟学年のメッセージのやり取り等による交流など、児童・生徒の交流活動を工夫しながら行えた。感想等から児童・生徒がその目的を意識しながら取り組んだことが分かり、成果といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗り入れ授業についてかかわる教員が限られている。小・中一貫した指導についての意識をさらに学園全体に広げ、指導を充実させていく必要がある。そのために、学園研究で乗り入れを取り上げ、すべての教科で乗り入れの実践を考えていく。三鷹市の学力調査を活用し学力についても検証していく。 ・ 新型コロナ感染症の影響で、子供熟議、児童・生徒海交流、70周年記念学園集会、第6学年中学校プレ講座等計画したが実施できなかった。次年度その意義や目的に照らして内容や方法について工夫し、実践し検証していく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	① 新学習指導要領移行を踏まえた授業改善 ② 基礎学力や学習習慣の定着を進める。 ③ 鷹南スタンダードの定着を図る。	
取組	① 学園として「生徒の資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善～指導と評価の一体化の視点によるさらなる充実」をテーマに研究に取り組む。 ② 地域未来塾や生徒会を活用し、学習支援をしながら家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ③ 鷹南スタンダードの定着のため保護者への周知徹底と自己申告等にスタンダードの取組を記入させる。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 児童、生徒の資質・能力を育成する主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善では、各校の課題に応じた校内研究会で進めることができたことは、日常の授業改善につながり、とても有効であった。 コロナ禍において、地域未来塾等の取組も制限されたが、地域の皆様のご協力のおかげで、継続して実施することができ、個々の子供の学びの保障につながった。 鷹南スタンダード学習編の改訂に向けて、学園運営委員会で協議、検討し、組織的に具体案の検討ができたことは成果である。今後、実践を通して本当に価値あるものにしていく見通しがもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校の校内研究会を学園研究会として、互いに授業を見合う機会ができたが、一部の教員でしか交流ができなかったことは課題である。来年度からは、3校の教員がミックスされた分科会を設定し、分科会でサブテーマ決め、共通の視点をもって研究を進めることで、全員が主体的に取り組める学園研とする。 新しい生活様式に基づく教育改革の視点において、この学力の保障については、その方法も多様に考えていくことが課題となる。来年度は、1人1台のタブレット端末を活用した方法も取り入れ、誰一人取りこぼすことなく、包摂的に学力を保障する取組を学園として考え、実践していく。 スタンダードで画一的な指導にならないようにし、多様性を認めながらも誰もが身に付けるべき資質・能力洗い出し、日常的に有効なものにしていくことが課題となる。そのためには、今後も学園管理職会、運営委員会を通して熟議し、他の教員への周知を図る。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	① 「鷹南スタンダード (生活のスタンダード)」を定着させる。(みそあじ言) ② 人権教育・道徳教育を充実させ、自立した学園生を育てる。 ③ 望ましい態度や習慣を身に付け、自立して生活する力を育てる。 ④ 自己有用感や肯定感を高め社会性を育てる。	
取組	① 鷹南スタンダードを一層、焦点化、重点化したものにした上で、周知徹底するとともに、教員の自己申告書に盛り込む。さらなる家庭との連携を図っていく。 ② 東京都道徳教育推進拠点校や 人権尊重教育推進校としての成果を強みに、さらに人権教育、道徳教育、支援教育の充実を図る。 ③ カリキュラム・マネジメントを踏まえて様々な教育場面で見方や・考え方、主性や主体性が育つように指導を工夫する。 ④ きょうだい交流・中学生のボランティア活動・学校行事を通して自己有用感や肯定感を高める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 鷹南スタンダードの生活編においても学園運営委員会で検討し、各校の生活指導部を中心に改訂案を出し合い、今後、実践をとしてより良いものにしていく見通しがもてたことが成果である。 コロナ禍においても中原小の人尊校としての実践は学園で共有でき、特に道徳授業地区公開講座では、地域ぐるみの心の教育の実践、取組ができたことは大きな成果と言える。 学園の交流活動は制限される中、学園長の方針で、形を変えてでもねらいを達成させたいという思いから、教員のアイデアをもとに交流ができたことは成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 鷹南スタンダードの学習編とともに、学習と生活は一体であり切り離せないという認識を高め、より日常的に活用できるスタンダードに改訂するとともに、家庭生活で汎用されるようにすることが今後の課題である。来年度は改訂版を完成させるとともにCS委員会等、保護者と連携を図る具体策も検討していく。 コロナ禍における対策を施したうえで、道徳授業地区公開講座等の具体策を各校で共有し、学園として一体感のある心の教育の実践することが課題である。そのために中原小学校を拠点として2校がその成果をいかして実践に取り組む。 理念を継承し、方法を改革することが課題となる。来年度は、より教員のアイデアを生かし、1人1台のタブレットを活用した交流等も視野に入れて実践する。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	① 学園運営委員会を活用し、学園における健康・体力育成上の課題に対応する。	
取組	① 学園運営委員会では今年度も「体力部会」を設定し、調査等を分析する。教育課程編成や授業改善のための資料の作成を行い、重点的取り組みを明確化する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 本年度はコロナ禍の中、都の体力調査が中止となり、それにともない、調査の分析もできなかった。また同時に、年度当初休校であったことから、児童生徒の体力低下が懸念された。また、学園運営委員会においても「体力部会」の設定もなかった。ただその中でも、各校において、体育の時間の取り組み、昼休みの校庭開放・体育館を解放した運動の促進、体育大会・運動会の実施の実施、オリンピック・パラリンピック教育の活用など、意図的・計画的な取り組みによって、児童・生徒の運動量の確保ができた。 中学校の部活動は1学期の緊急事態宣言解除後は段階的に実施時間等を広げたことで、低下している体力が目に見えるほど徐々に回復することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度はコロナ禍の中、都の体力調査が中止となり、それにともない、調査の分析もできなかった。来年度、体力調査が実施できれば、学園運営委員会「体力部会」を設定し、調査等を分析し、授業改善や教育課程編成に向けての資料の作成を行い、重点取り組みを明確化する。 児童生徒の体力低下の懸念に対して、一部、体力低下が著しいのままの児童・生徒も散見された。各校の体育担当等が意図的・計画的な取り組みを行い、縄跳び週間・マラソン週間など、重点的取り組みを明確にし、運動する機会を確保・増加することで体力向上が期待できる。 情報の引継ぎができるよう、小学校の情報を共有できるようにしたことから、今後、それらをどのように生かしながら、重点的取り組みへリンクさせていくか、その具体を検討し、実際の活動に結び付けていく。

検証項目	6 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	①臨時休校措置に対応し、学力を保証する。 ②教員のタイムマネジメント力の向上 ③ 地域行事等への参加の工夫等 ④ 部活動指導の見直し。	
取組	① 指導時数確保、行事等の精選、補習等の計画や体制づくりを進める。 ② ICTを活用しながら、教員のタイムマネジメントが行えるようにする。 ③ 地域行事については、年度当初から見直しをもち、計画的に参加ができるようにする。	
	成果	課題と改善方策
	① 臨時休校期間中は、ホームページに課題を提示したり、教材を作成し配布したりするなど、学びを止めないための工夫をすることができた。また、失った時数を確保するため、第二・第四土曜日の授業実施、夏季休業日の短縮(中3)、週30コマの授業実施(中学校)、行事の精選、長期休業中の補充学習を実施でき、学力の保障に寄与した。 ② ICTを活用し、教員のタイムマネジメントは行うことはできた。 ③ 地域行事については、一部の行事が実施され、多くの児童が参加した。 ④ 部活動指導について、複数の顧問の配置ができた部活動の中には、顧問同士で調整をして、円滑な活動を行うことができ、生徒の満足度も高かった。	① 臨時休校期間中の課題提示や提出・フィードバックは行ったが、学力向上や家庭学習の定着に必ずしも直結しなかった児童・生徒もいた。「個別最適化された学び」のために、今後の臨時休校を見据えて、1人1台のタブレット端末を授業でも家庭学習においても、積極的に活用しながら、学力の確実な定着を図る。 ② コロナ禍の中、感染防止対策への対応・授業時数の確保等により、教員の仕事量が増えたことで、タイムマネジメント力の向上は課題である。ICTの活用をすることで、意図的計画的なタイムマネジメント力の育成を図りたい。 ③ 今年度は地域行事のほとんどが中止になった。来年度は参加できる状態になってほしい。 ④ 部活動の多くが勤務時間外での活動であることで複数顧問の配置が全部活動ではできず、一部教員に大きな負担になった。外部指導員も顧問の適正な配置を目指す、厳しい状況は変わらない。

令和2年度 鷹南学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて

- | | |
|---|--|
| 1 | 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ CSとの協働し、よりよい子供の育ちにつなげることができた。また学園やCS委員会等の在り方について課題を共有できた。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響か、一貫校としての教育活動について見直す機会となり、よさや可能性を明らかにすることができた。 ・ 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に学校ごとのよさを生かして取り組み、具体的な授業モデルが明らかになってきた。 ・ 学園生の健全育成上の課題を学校・地域・家庭で共有することができた。 |
| 2 | 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること |
| | <ul style="list-style-type: none"> ① CS委員会の目的等について合意形成を進め、スクール・コミュニティの核を目指す。 ② 学園生の交流活動や乗り入れについて意義や目的を考え、さらに工夫し、効果を上げていく。 ③ 主体的・対話的で深い学びに向けて、タブレット端末の活用・個別最適化を踏まえた実践をしてく。 ④ 小・中一貫して学園生の心を豊かにし、一層安心して楽しく学園生活を送っていけるようにする。 |
| 3 | 「2」の重点課題を解決するための改善策 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ① CS委員会において研修や熟議を行い、合意形成を丁寧にししながらスクール・コミュニティのネットワークを構築する。 ② 学園生のための交流活動となるよう、丁寧に検証する。また、学園研究をとおして全教員で乗り入れに取り組む。 ③ 鷹南版小・中一貫カリキュラムに基づき、主体的・対話的で深い学び、個別最適化の取り組みを3校で推進する。 ④ 保護者と連携して改訂版鷹南スタンダードの徹底・検証・改善に一貫して取り組み、健全育成を支えていく。 |

東三鷹学園



令和2年度 東三鷹学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	1 東三鷹学園スタンダードの充実 2 CS委員会や学園のPR活動の推進 3 サポート隊の充実、地域人財の活用	
取組	1 より効果的に東三鷹学園スタンダードを取り組めるように、教員とCS委員が連携して改善を図る。 2 学園カレンダーをCS委員会と連携して作成する。CSだよりや学園HPの充実を図る。 3 3校のサポート隊事務局の連携を強化する。また、地域人財を効果的に活用した教育活動を推進する。	
	成果	課題と改善方策
	1 東三鷹学園スタンダードをファイル化し経年で見取れるようにして2年目である。休校や感染対策の中でも、児童・生徒の取組は定着してきており、実施できた。また、CSだよりを活用して、各家庭での効果的に活用した実践例を紹介した。 2 学園カレンダーはCS委員会を中心に学校と地域が連携して、第1号を完成、配布した。CSだよりは、活動が制限される中で、広報部を中心に第2号まで発行した。また、学園だより（1～5号）で学園の取組を地域・保護者に発信できた。 3 SC推進員が推進役となり3校のサポート隊が連携した取組ができるようになってきた。ボランティア募集システムを学園として運用できるように準備が進行中である。	1 休校や感染対策で、CS委員の保護者会での説明や熟議を開催しての啓発活動はできなかった。保護者や転入した教員への理解する機会が十分にもてなかつたことが課題である。次年度は、感染対策をしながらでも多くの方が理解できる機会を設けていく。 2 学園カレンダーについては、作成していく過程で、さらに学校と地域の諸団体との連携を強めていくことが、今後の課題である。毎年作成できるように作成のプロセスを明確にしていく。 3 学園のサポート隊として、ボランティア募集システムを令和3年度から実施することが今後の課題であり、3校のサポート隊事務局の連携を強めていく。学園ホームページ活用が十分でなく、有効に活用して発信していく。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	1 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 2 相互乗り入れ授業の充実 3 児童・生徒の交流活動の充実	
取組	1 学園カリキュラムに沿って、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にした授業改善を推進するとともに、カリキュラムの改善を図る。 2 小・中学校間の相互乗り入れ授業を推進する。（算数・数学、保健体育） 3-1 小・小学校、小・中学校の交流活動を推進して人間関係を深める。 3-2 TEH（学園生徒会・児童会）の活動を推進し学園の自治意識を高める。	
	成果	課題と改善方策
	1 今年度は、合同研究は行えなかったが、学園研究のテーマの下、指導案を回覧板などで共有し、各校で授業研究を中心に進めることができた。中学校の新指導要領完全実施に向けて、第六中学校では評価についての研修を行った。 2 緊急事態宣言解除の期間は、小学校から中学校への乗り入れを予定通り行った。 3-1 今年度は予定していた交流活動は行えなかった。 3-2 新しい試みとしてリモートでの話し合いや、3校同時開催のあいさつ運動を行うことができた。	1 新年度は合同研究を再開し、小・中9年間のつながりを意識した授業研究と、学園版カリキュラムの改善を行っていく。 2 今年度行えなかった乗り入れ授業を、教科とやり方を、より効果的な形にして実施する。小学校から中学校は教科を固定せずに中1の各クラスに入る。中学校から小学校へは算数、体育、外国語のいずれかで実施する。 3 小・小、小・中の交流活動を、実施可能な形にして、できる限り実施する。Withコロナを意識して、持続可能なやり方で行う。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	1 基礎学力の向上 2 教員の指導力の向上 3 家庭学習の充実	
取組	1-1 個別最適化した学習を推進し、確かな学力を一人ひとりに定着を図る。特に個に応じた指導の徹底、ICT機器の積極的な活用、学園としてのコンテスト（JMコン）を実施する。 1-2 小・中学校で「みたか地域未来塾」を効果的に実施し、補充学習の充実を図る。 2-1 学園研究会の充実を図り、研究の成果を日常の授業で実践できるようにする。 2-2 三鷹市小・中一貫カリキュラムに沿って作成した東三鷹学園版カリキュラムや三鷹「学び」のスタンダードを活用して授業の質的改善を図る。 3 家庭と協働して、家庭学習を推進する。	
	成果	課題と改善方策
	1-1 JMコンは予定通り行うことができた。一人1台タブレットが導入され、それを活用した学習を行っている。個別最適な学びを目指し、いざリモート学習を行わなければならない場合にも対応できるように、活用を積み重ねている。 1-2 緊急事態宣言発令により、中止せざるを得ない期間はあったが、各校の実情に合わせ、きめ細やかな指導を行えた。 2-1 学園合同研究は行えなかったが、各校でテーマを基に授業研究を行った。 2-2 新しい学習様式が求められ、活動が制限される中、今できる限りの授業改善を行った。 3 一人1台タブレットの導入により、各家庭との学習についての共有ができるようになった。	1-1 一人1台タブレットを学習のツールとして、協働的な学びと融合した令和の日本型学校教育の実現を図っていく。 1-2 みたか地域未来塾の講師の人数を増やし、少しでも多くの児童・生徒の学力の底上げを図っていく。 2-1 来年度集合研究が行えるかどうかは不透明である。学園研のテーマの下、数多くの授業を行い、児童・生徒の変容で検証していく。 2-2 新年度も学園版カリキュラムの改善を継続していく。 3 一人1台タブレットを有効に活用し、家庭でも自分に合わせた課題に取り組みめるよう、家庭にもやり方を周知していく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	1 人権と言葉を大切にした指導の推進 2 情報モラル教育の推進	
取組	1-1 いじめの根絶、体罰0を目指す教育を推進する。 1-2 学園として挨拶運動を推進する。 1-3 学園として規範意識の向上を目指す。 2 地域・家庭・学校が協働して、情報モラル教育を推進する。	
	成果	課題と改善方策
	11 いじめアンケートや児童・生徒との会話、生活のスタンダード、日々の指導を通して、いじめを早期に発見・防止することができている。また、スクールカウンセラーや保健室の活用により、悩みや問題に適切に対応している。 12 あいさつ運動期間を中心に日々の活動を通して、大人から積極的にあいさつを行うことで、児童・生徒の自覚の向上を促している。 13 児童・生徒が時間を守る、忘れ物をしない、きまりを守るなどの生活習慣が身につけている。また、相手に応じた言葉遣いの意識を高くもっている。 2 最新の携帯・スマホ、タブレット、PCの現状を学び、情報リテラシーの向上に努めることができている。	11 いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は高くない。地域・家庭との連携をさらに強固のものとし、指導の充実と取り組みに対する理解を進めていく。 12 あいさつに関して保護者の肯定的評価は高くない。学校では、大人が積極的に挨拶することで、生徒の意識向上を計っている。家庭でのあいさつのあり方にもより意識を持ち協力して行う必要がる。 13 学園スタンダードとリンクさせた意識が低調である。生活と学力の相関性を高めるために、学園スタンダードを共通のツールとした積極的な活用をしていく。 2 テクノロジーの進歩が速く、対応が後手にまわっている。苦手意識を捨て、児童・生徒と同等以上のスキルを追求していく。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1 体力の向上 2 地域貢献する力の育成	
取組	1 義務教育9年間を見通した体力づくりの取組を実施する。 2 地域行事への参加やボランティア活動を通して、児童・生徒の心と体の健康づくりを推進する。	
	成果	課題と改善方策
	<p>1 (1) コロナの影響で、中学校教員が小学校高学年の体育の授業での指導がほとんどできなかった。専門的な技能の習得とともに、運動に親しみ体力の向上に繋げる意味でも早期に再開したい。</p> <p>(2) 体力テストの結果から、学校の課題を集約し、健康教育委員会が中心となり、学園の課題を把握した。さらに、課題改善に向けての方策を検討し、コロナ明けには実践したい。</p> <p>2 コロナの影響で、地域行事への参加やボランティア(地域行事・小学校行事)活動がほとんどできなかった。多くの人のために奉仕し感謝されること等で、自己有用感をもたせ、小学校では地域行事への参加を奨励し、地域の一員としての意識を高めていきたい。</p>	<p>1 義務教育9年間を見通した一貫した体力向上の取組をさらに充実させていく必要がある。体力調査の分析から各校の実践まで情報を共有し、より効果的な実践に繋げていく。</p> <p>特に柔軟性や投げる力に課題があり、体育の授業や体育的な活動において、課題改善のための継続的な取組を学園として推進していく。また、相互乗り入れ授業を効果的に活用し、教師の指導力を高めるとともに、教員間の情報共有をさらに進める。</p> <p>コロナの影響での運動不足も大きな要因である。</p> <p>2 児童・生徒の地域の一員としての意識を高め、ボランティアを通して自己有用感を高めることを、継続していくことが大切である。地域行事への参加、ボランティアの参加をさらに奨励して、地域の中で人間力・社会力を高めていく。正常な日常に早く戻ってほしい。</p>

検証項目	6 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	1 教職員のライフ・ワークバランスの推進	
取組	1 校務改善や教職員の意識改革を図りながら、3校の実態に応じた働き方改革を推進する。	
	成果	課題と改善方策
	<p>1 各校の主な取組は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤日の設定 ・ 1日30分の実質の勤務時間減の努力 ・ 部活動顧問の複数配置 ・ 長期休業中の休暇取得促進 ・ 毎月の教職員一人ひとりの超過勤務時間の確認 ・ 個別に教職員の状況確認 <p>少しずつではあるが教職員の在校時間は減ってきている。教職員が仕事を効率的に行い、ライフ・ワークバランスを推進しようとする意識は高くなっている。</p>	<p>1 各校で工夫した取組を実施し、効果は出ているが時間外に仕事することが多い現状は続いている。各校の取組や成果を共有し、さらに校務改善を推進する。また教職員一人ひとりのライフ・ワークバランスの意識をさらに高めていく。</p>

令和2年度 東三鷹学園の評価・検証結果のまとめ

(1)から(7)の検証結果を踏まえて	<p>1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学園合同研究会では、テーマに沿って各校で実践して、成果を共有することができた。感染対策の中でも回覧板等を活用して情報交換しながら、学園全体で授業改善していく姿勢がもてた。 ○ 学園カレンダーをCS委員会を中心に第1号を作成することができた。作成していく過程で、各校や諸団体との連携を強めることができた。 ○ いじめ調査やQ-U調査、生活スタンダード、日々の指導や児童・生徒との会話を通して、いじめの早期発見・防止することができている。また、きまりを守ることや相手に応じた言葉遣いの意識が高まっている。
	<p>2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中のつながりを意識した、さらに充実した学園研究の実施していく。また、一人一台タブレットを学習のツールとして、有効に活用する研究を深めていく。 ○ CS委員会と協働で、学園スタンダードの保護者の理解を深め、より効果的に活用できるようにする。 ○ 感染症拡大のために予定された児童・生徒の交流活動を実施できないものもあった。実施方法等を創意工夫していく。 ○ 学園3校のサポート隊事務局の連携を強化し、サポート活動の充実を図る。 ○ 学園・CS委員会の活動の発信をさらに充実していく。
	<p>3 「2」の重点課題を解決するための改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学園合同研究会は、テーマに沿って授業研究を中心に実施するとともに、タブレットを活用した実践の交流を行う。また、学園版カリキュラムの実証を行い、地域人財を活用した授業実践を行う。 ○ 学園スタンダードについて、活用方法について教職員の共通理解を図るとともに、保護者会や熟議を保護者の理解を深める機会にする。 ○ 乗り入れ授業をより効果的な方法で実施する。交流活動は実施可能になるように工夫していく。 ○ 学園3校のサポート隊が合同で、ボランティア募集システムを導入して、活動の充実を図る。 ○ CSだより、学園だよりで活動を発信する。特に学園ホームページを充実していく。

おおさわ学園



おおさわ学園

令和2年度 おおさわ学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	コミュニティ・スクール委員会における協議と支援そして広報の充実 保護者・地域住民の学園・学校教育活動への参画推進	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ CS委員会の年間計画を作成し協議を活発化する。 ・ 広報活動を行い、学園・学校のサポート活動の充実を図る。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休校中や緊急事態宣言が出た直後の2回以外は、対面で5回、郵送やオンラインで2回CS委員会を実施することができた。 ・ サポートについては、コロナウイルス感染症対策をしながら限定的ではあるが実施することができた。ウェブによるサポートの募集も軌道に乗った。 ・ 学園・学校評価アンケートについては、今年度からウェブで回答できるようにした。学校評価アンケートの回収率は約77%であった。「学校は保護者や地域の方を学習や学校行事、部活動等に活かしている」についての肯定的な回答は約85%であった。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CS委員の交流や情報交換が不十分であった。 ・ おおさわ学園の児童・生徒について体力作り、物の管理、家庭での役割分担に課題がある。 ・ 地域人財を教育活動にさらに活かしていく。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインでの実施も含めてCSの各部会の活動を活性化させたり、研修会を行ったりする。 ・ CS委員・教職員・子供たちでテーマを決めて熟議を実施する。 ・ 広報部会で学園HPの更新を行えるように研修を進める。 ・ 各校でサポートの活用・方法について学園カリキュラムに位置付けながらCSとともに見直しを行う。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	学園研究の充実	
取組	「小・中一貫カリキュラムおおさわ学園版の実践と発展」を研究主題とし、学園カリキュラムの作成と研究授業を実施する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科とも「令和2年度の重点」を共通理解し、「おおさわ学園カリキュラム」を活用し計画的に指導を行いながら改善に取り組みことができた。 ・ 研究授業は、予定通り各校1教科ずつ実施することができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため分科会のめんばーのみの参観と制限した。研究協議会には分科会以外の教員も参加することができた。全研究授業に講師を招聘し、ご指導いただき有意義だった。 ・ 学園全体の研修会は、3回実施した。教育支援と評価とポイントを絞ったため大変分かりやすく好評だった。またタブレットの研修も学園で一堂に会して行うことができ交流も兼ねることができた。 ・ 小・中一貫教育コーディネータ会を教務主任、研究主任もともに4回開催できた。児童・生徒の交流の在り方、教員研修の在り方等議論することができた。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Withコロナの中でも学びを止めることなく「おおさわ学園カリキュラム」を実践しながらブラッシュアップを図る。 ・ 一人一人の児童・生徒の実態をより明確化し、個別最適化された学びの実現に取り組む。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「おおさわ学園カリキュラム」をよりよいものにするため、CS委員会とも連携しながら、地域人財や施設を見直したり、新たに位置づけたりしながら学園研究として取り組んでいく。 ・ コーディネーター会が中心となり、学園教職員で熟議を開催し、「思いの共有」を図る。 ・ 児童・生徒が「個別最適な学び」を実現できるよう一人一台のタブレット端末をはじめとするICTの活用と協働的な学びを組み合わせながら実践を深めていく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	授業改善	
取組	学園研究会や校内研究会を計画的に実施し、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業を目指す。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策をしながら、研究授業をもとにした学園研究及び校内研究に、全教員が課題意識をもって取り組むことができた。 さらに、校内研究と関連させ、主任教諭が教諭に指導法を伝授する校内OJTも月に1回のペースで行ったり、16時30分からの15分間を活用して校長および主任教諭が講師となって各種講習を行ったりして、授業力向上に役立てた。 小・中学校3校とも、全教員が公開授業を実施し、管理職及び他の教員が授業観察をし、管理職の指導とともに、教員同士が互いの授業を評価し合い、授業力を高めることができた。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三密を避けるため、「対話的」な授業の実施が制限され、十分な成果を上げることが難しかった。 学園研究や校内研究においても、多くの教員が一堂に会した協議会等を実施することが難しく、十分な話し合いができなかった。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一台のタブレット端末を活用した、双方向的な授業の形態を積極的に取り入れていく。 学園研究や校内研究においても、リモート会議のよりよいシステムを構築し、全員の参加意識を高めていく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	心の教育	
取組	地域社会との幅広い交流の中で、地域の文化継承・発展に寄与し、参加やボランティア活動を通して地域を愛する自動・生徒を育成する。 道徳教育の充実を図り、豊かな情操を育み、情緒の安定を図る。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染防止のための措置により、地域社会との交流が制限され、ボランティア活動等は難しい状況であった。しかしながら、各校で工夫をし、豊かな人間性の育成を目指し、様々な取組を実施することができた。 児童会（代表委員会）および生徒会を中心に挨拶運動をじっし、あいさつを通して、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、他者を思いや意欲・態度を伸長することができた。 ユニセフ募金活動を実施することにより、世界の恵まれない子供たちの状況の理解を深めるとともに、世界の平和に貢献する奉仕の精神を育てることができた。 ほたるの里、餅つき大会に参加することにより、郷土を愛する心を育むことができた。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 右記のとおり、新型コロナウイルスの感染防止の措置による学校行事等の制限は、今後も続くものと思われる。したがって、感染防止を第一に考えた上で、限られた条件の中で、最大限の工夫をして、豊かな人間性を図る必要がある。 深刻なケースにはならないものの、友達に対して、心ない言葉で傷つけたり、他者との関わりを避けようとしたりする状況が見られる。 <p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続してあいさつ運動を実施するとともに、地域と連携した奉仕活動を行うことにより、他者とのかわり方を身に付けさせ、自分の生まれた郷土を敬う意欲・態度を育てる。 配布した「スクール・コミュニティカレンダー」をもとに中学生は地域のボランティア活動、小学生は地域行事への参加を呼びかける。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	基本的な生活習慣の確立	
取組	生涯にわたり健康で自立した生活を送るための基礎となる基本的な生活習慣の定着や心身の健康・体力の向上を図る。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 小学校においては、「持久走記録会」が実施できなかったが、体育の時間等で長い距離を走る経験を積んだ。また、様々な運動が制限される中で、なわ跳びは年間を通じて取り組んだため、持久力や巧みな動きが高まった。 中学校においては、新型コロナウイルス感染症対策をとった上で12月にマラソン大会を実施できた。持久力については、体力の中でも特に高いことが計測できている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都統一体力テストの全種目実施ができなかったため、一昨年度の記録からの伸びが分からなかった。50m走や20mシャトルランは体育等で実施しているため、来年度の体力テストを実施する前に、児童生徒に記録を伝え、令和2年度と3年度との記録伸びを確かめたい。 水泳指導ができなかったため、泳力の低下が心配される。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を講じた上で、体力テストの全ての種目を6月に実施する。学校ごとに体力の課題を分析し、2学期以降の体育の時間を中心に児童生徒の課題に対応した体力向上の重点的な取組を行う。 感染症対策を講じた上で、1年間の空白期間があることも鑑みて、発達の段階にあった水泳指導を行う。

検証項目	6 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教員のタイムマネジメント力の向上	
取組	校務を見直したりICTを活用したりしながら、効率化を進める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、2か月の休校、行事・部活動の中止、縮減が行われた。会議、出張も中止または、オンラインで実施することが多くなり、比較的時間に余裕があった。 子どもたちに一人1台タブレットが導入され、学習の効果を上げたり、校務の改善につなげたりする動きがみられるようになった。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> Withコロナの中でできないことや感染が収まったらできることが混在してこのままではより多忙感が増す可能性がある。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精選された行事や学習活動を真に必要なものかを教職員やCS委員とともに再考したり、再構築したりしていく。 ICT環境の整備や会議の見直し等をさらに推し進め、児童・生徒たちと向き合う時間を確保するとともに、時期による授業時数の調整等を通して、研修や教材研究等の時間を確保していく。

検証項目	7 その他	
目標	学力の保障	
取組	コロナウイルス感染症対策のための臨休等に伴い、登校再開後、学力の保障を図る。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 1月中旬に配布された一人一台の学習用タブレットを授業、みたか地域未来塾、家庭学習等で活用できた。学習したことがタブレット上に蓄積されるため、自分ができる部分と不得意な部分も容易に確かめられる。 タブレットを活用して授業を行っていく中で、スライドの作成や文章を記述してクラスで共有を行った。より友達に伝わるような文章、公正にする必要があるため、必然的に思考力、判断力、表現力等を高められている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導する教員が学習用タブレットの機能を更に知り、授業での効果的な活用法を学ぶ必要がある。 タブレットを学ぶのではなく、タブレットを使って学習することが重要なため、1時間1時間の授業のねらいを明確にすること及びその教科の特性を味わえる授業を展開していく。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学園であるいは学校単位で、学習用タブレットを活用した授業の相互観察や、研修会を行う。また、教職員の入れ替わりがあるため、転入教員もすぐにタブレットを使いこなせるように年度初めに研修を行う。

令和2年度 おおさわ学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中でも学園研究や各校の研究授業を通じておおさわ学園カリキュラムの見直しや改善が進んだ。 ICTの導入が進み様々な使い方により、授業改善や校務改善が進みつつある。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ul style="list-style-type: none"> スクール・コミュニティの構築を目指し、地域と学園のきずなをさらに深めていく。 「おおさわ学園カリキュラム」の精度をさらに上げ、児童・生徒の学力上の課題を解決していく。
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<ul style="list-style-type: none"> 学園研究を中心として、9年間の視点でカリキュラム・マネジメントを行いながら、CSやSC推進員とともに地域人財を活用した実践をおおさわ学園カリキュラムに位置付けていく。 学園の運営組織の見直しを図り、コーディネーターを中心にいつ・何をするかを明確にしながら学園としての活動が各校教職員によりわかりやすくなるように改善する。 CS委員・教職員・子どもたちでテーマを決めて熟議を実施する。 ICTの活用や会議の見直し等を行い、さらに子どもたちと向き合う時間の確保や在校時間の縮減を図る。